

---

# 『原初の世界』についての考察

シュレーディンガー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

『原初の世界』についての考察

### 【Nコード】

N4528P

### 【作者名】

シュレーディンガー

### 【あらすじ】

某弓兵以外が召喚される事って有るの？という考察。小説じゃねーです。ブログでやれって？ごもつともです、はい。

本項はTYPE-MOON原作、『Fate/stay night』の致命的なネタバレを含んで書いている為、原作未プレイの方等、ネタバレを避けたい方は読まない事を推奨致します。

また、原作設定の考察や二次創作について興味が無い方に対しては、本項は無価値です。その点を留意下さい。

筆者が投稿している『反逆者』に関する、原初の世界についての考察。

向こうの感想で指摘を受けた様に、英霊エミヤが存在している”現在”、英霊エミヤが座に登録されるであろう原初の世界であつても、遠坂凜が英霊エミヤ以外のサーヴァントを召喚する事は無い。遠坂凜が触媒を用意出来れば話は別だが、別の触媒を用意出来ない以上は必ず、英霊エミヤが召喚される。

つまり、原初の世界なんてモノは存在し得ないし、幾ら神の如き力を持つ者であろうとも、『反逆者』の様な世界を存在させる事は不可能だろう。

故に、作中で解説者が唱えた『シュレーディンガー論』は通用しない。

しかし、次元と時限を超える存在、英霊であろうとも、全ての次元で登録される事象、言い換えれば、可能性が無ければ話は変わってくる。

具体的な状況を挙げると、遠坂凜が召喚に臨む時点で、全次元で“衛宮士郎”が英霊として登録される可能性が無いならば、英霊工ミヤの存在も発生し得ない。

この場合、遠坂凜の召喚は失敗に終わるか、聖杯の意思によって例外事項が発生する可能性がある。

原初の世界は既に存在せず、しかし、“在った可能性”だけは存在し得る。

そして『反逆者』で描かれた世界の様に、“現在”より原初の世界の介入点へ至る為に満たさなければならぬ条件は、大きくして二つ。

一、全次元が収束を終えていなければならない。  
二、次元点が分岐を開始し、尚且つ、当該事象が発生する可能性はゼロでなくてはならない。

要するに、後先問わず『根源に到達している事』と、『衛宮士郎は最初、英霊と成る要因が無かった』という条件を両方満たす必要がある。

後者に関してはIFに該当する為に確実性は無いが、本作に於い

てはこれを採用している。

否。

”採用した”が正しい。

詰まる所、本作の設定は殆どが後付けだ。しかもオリジナルと言えるモノなんて有りはしない。

キャラも模倣なら、設定やシナリオですらも模倣。自力で文章に起こしては居ても、力足らずで劣化コピーと成り下がっている。

ならば、価値は無いのか？

答えは否だ。この世に存在する全てのモノは、何かしら価値がある。

それはビター文と成らないかも知れない。しかし、この世に『本当のゼロ』なんてモノは存在しない。

ある一点の視点から見ればゼロであっても、別の視点から見れば必ずイチと成り得る。視点の数が本当の意味で無限である以上、ゼロと化す事は無いと断言しよう。

もっとも、葛木センサーのおっしやられた様に「例外は常に存在する」。

具体的には挙げないが、まあ、そういうモノだと無理にでも納得するしかない。道が見えずとも、幾らでも抜け道は在るんだから。

所詮、人の知恵なんざそんなもんだ。真理に見えても大抵は真理

じゃない。

「法則なんてもんはな、全部便宜上のものなんだよ」とは誰の言葉だったか、本当にその通りだと思っ。

さて。些か脱線してしまっが、今に書きたい事は全て書いた。

これを目にしてくれた方、何か思う事が有ればメッセージでも何でも残して行ってくれると有り難い。

別に無反応でも我慢出来なくも無いが、音の無き世界はやはり寂しい。

何時か君に紡がれる歌を、私は楽しみにして待つとしよう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4528p/>

---

『原初の世界』についての考察

2010年12月19日01時37分発行